

奄美だけのサステナブル・ツーリズム

～島民から始まる地域特性を活かした持続可能な観光ルール～

法文学部人文学科多元地域文化コース3年 横山眞美

1 「自治体×JALグループの地域活性化プラン」 分析し抽出された企業と自治体の共通課題

- ・受入先企業名：日本エアコミューター株式会社(JAC)
- ・主な事業内容：鹿児島島の離島路線を担う地域航空会社としての役割と共に就航地の地域活性化に取り組んでいる。
- ・ISスケジュール：8月29日～9月12日(うち10日間)
〈9月6日～9月9日奄美大島〉



JAC

島民の生活路線を持続可能に維持していくために、就航地奄美の地域活性化を図り、関係・交流人口を創出しなければならない

奄美大島

世界自然遺産に登録され観光と環境保全の両立が目指される。人口減少や高齢化が加速しており外から人を呼び込む必要がある

共通課題

観光を手段とした
持続可能な奄美の地域活性化

- やみくもに観光振興を行うことかつての屋久島のような**オーバーツーリズム**を引き起こしてしまう
- ・植物の踏み荒らし、踏み固め、トイレの設置や排せつ物の運搬作業の問題など

屋久島

⇒**エコ・ツーリズム**の考えのもとに、屋久島の生態系への影響を軽減する観光形態をエコツアー等を通して実施した。

フィンランド

⇒国家として環境問題の解決を目指していたため政府観光局も観光に**サステナブル・ツーリズム**の考えを取り入れ、「サステナブル・トラベル・フィンランド・ラベル」という独自の認証制度の作成や旅行者への具体的行動促進として「サステナブルな旅のアドバイス11選」の周知を行っている。

奄美大島もオーバーツーリズムを引き起こさないためには環境・社会・経済に配慮したサステナブル・ツーリズムの考えに基づく観光を行うことが重要である。しかし、それはこれまで**他の地域が行ってきたことを輸入するだけでなく、奄美の人々や自然環境、歴史や文化の特性に合わせた奄美らしいサステナブル・ツーリズム**である必要がある！

2 奄美大島でのフィールドワークの分析

奄美の人ならではの「結のこころ」に感動した！

- 「木きったら代わりをうえんば」
- 「おばなまら買い物いきたかどぬーか要るりゅんにゆ」
- 「民謡日本一はまんでいうっど」

島の人の人柄、自然なふるまいの中から感じる精神である「結のこころ」が島の人たちにはあると思った。

島の人に引き継がれる「結のこころ」は**水平的な人とのつながり**と共に、**次世代のために島の環境や文化を残していく時間的なつながり**を考へることであり、結果として奄美の恵みは守られてきたと考へる。

《ヒアリング調査》

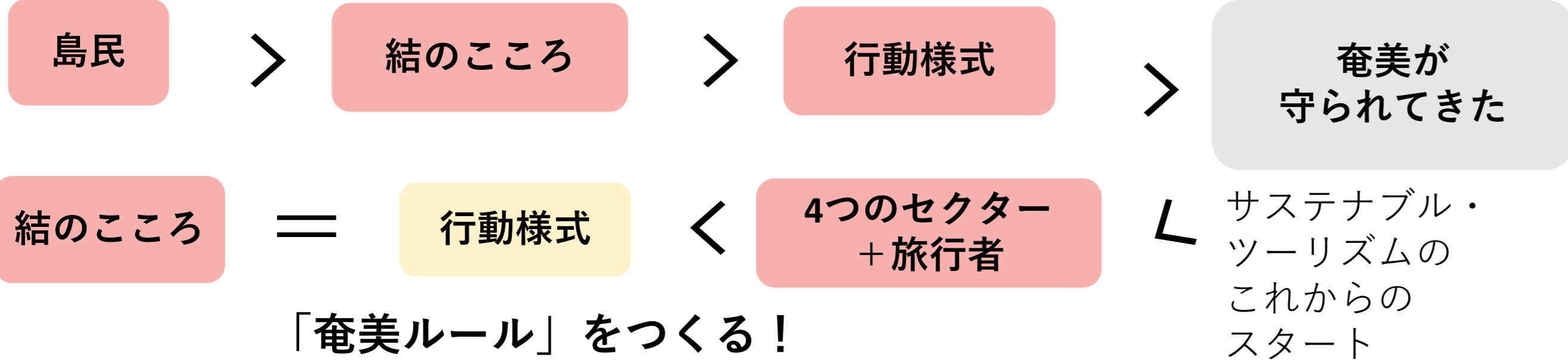
- 1stセクター**：行政(市役所)
・SDGs推進事業・観光事業者への助成事業・移住者向け支援の整備
- 2ndセクター**：民間企業5件(JAL奄美営業所、あまみ大島観光物産連盟、アーマイナープロジェクト、西平酒造株式会社など)
・観光事業者への研修活動、協議会開催・島外へのプロモーション
・集落(シマ)文化、アイデンティティ教育
・地域密着型航空会社(JAC)・世界自然遺産推進共同体
- 3rdセクター**：非営利組織2件(本場奄美大島紬販売協同組合、あまみエフエム)
・伝統文化の継承・奄美の日常を発信
- 4thセクター**：島民
・「結のこころ」のつながり

3 課題解決策の提案

島民は昔から自然や人と近くつながった暮らしをしてきた。その価値観ともいべき「結のこころ」は島民に浸透していて、結果として奄美を守ってきた。

- ✓ **持続可能な地域をつくるための奄美だけのサステナブル・ツーリズムという舞台に転換すると**

- 「島民」という共同体は「4つのセクター+旅行者」という存在に拡大する。
- この拡大した共同体でサステナブル・ツーリズムを実践していく。
- その行動様式として「奄美ルール」を作る。
- そこには「島は自分たちのものだけではなく持続可能に引き継がれていくものである」という新しく解釈し直した「結のこころ」という価値観が自然に流れることになるのではないかと考へる。



「奄美ルール」作成のステップ

1

行政が主体となり4つのセクターの代表を集める

2

対話によって「奄美ルール」を作成。サステナブル・ツーリズムの取り組みの模索

3

旅行者への周知を1,2セクターで行う
・HP・機内誌等

4 「奄美ルール」の具体例と展望

奄美の食材を食べる

外部からもたらされたものを安く大量に消費するのではなく、奄美で栽培された食材をおいしく味わうことは、地産地消の促進だけでなく生産者も潤う持続可能な選択となる。

自然には何も残さない

自分の写真や記憶に豊かな自然を残すことができたら自然には何も残さない(自然を汚さない)。環境や人々の暮らしを守ることであり、次に来る旅行者、未来の奄美を考へる選択となる。

奄美ならではのものを購入する

選択肢がある場合は、奄美の歴史や特色を感じることができるようなものを購入する。奄美には大島紬の技法を活用した商品や奄美でしか生産できない黒糖焼酎など魅力的なものがたくさんある。それを手に取ることは良さをただ知るだけでなく、伝統文化を伝えることや地元の継承者を支援することに繋がる。

インターシップを通して関わった奄美大島の方々の人柄、気質は本当に素敵なものだった。そんな「結のこころ」が生きた奄美を残していくために、「奄美だけのサステナブル・ツーリズム」を提案する。多様なセクター同士で「奄美ルール」を作成し実行することで、奄美の自然や文化、人々のコミュニティを守る責任や動機が生まれる。そしてそこに旅行者も取り込み「結のこころ」を持って奄美を旅をする。これらを通して、これからの奄美の持続可能な発展が実現できるのではないだろうか。

参考文献

- ・村山慶輔(2021)「観光再生サステナブルな地域をつくる28のキーワード」プレジデント社
- ・UNWTO「TOURISM FOR SDGs」<https://tourism4sdgs.org/>(2023年1月6日閲覧)
- ・Visit Finland「サステナブルな旅のためのアドバイス11選」<https://www.visitfinland.com/ja/kiji-ichiran/sustainable-tabi-advice11/>(2023年1月6日閲覧)